勝林寺寺報

天親菩薩造論説　帰命無碍光如来
依修多羅顕真実　光闡横超大誓願

私たち仏教徒はそれぞれの宗派での違いは多くあるにしても、お釈迦様の教えに学んで、お釈迦様の到達された境地に至ることを望み、この人生を歩ませていただくことに変わりありません。日常の生活においても、仏の道を歩む工夫が様々になされていますが、お寺の日常、行事、法要はその模範となるものであると思います。

浄土真宗の仏道を中国の善導大師は五つの正しい行業として示されています。①読誦（どくじゅ）。浄土の経典を読誦すること。②観察（かんざつ）。心をしずめて阿弥陀仏とその浄土のすがたを観察すること。③礼拝（らいはい）。阿弥陀仏を礼拝すること。④称名（しょうみょう）。阿弥陀仏の名号を称えること。⑤讃嘆供養（さんだんくよう）。阿弥陀仏の功徳をほめたたえ、衣食香華などをささげて供養すること。この五つの正しい行業を五正行と呼びます。その時代と場所に応じて文化は変化していく中でも、お寺はこの五正行を基本として運営され、その営みの中で人々をお念仏の道に導きいれるのです。

その中でも“読誦”、お経を読むことは、一般社会の人から見ても中心的な仏教的行為であり、お坊さんといえば、お経を読む人のように感じられているのではないでしょうか。確かに僧侶としてお経を読むことは重要なことであり、先般のどを痛めて声が出にくくなった時には、住職として不安を覚え、周りの方々にもご心配をかけたことに思います。幸い声も回復し、またお正信偈を毎日大きな声で唱えさせていただけるようになっているのですが、この正信偈を読んでいくときの僧侶の“あるある話し”があります。眠気に誘われながらぼんやりと読んでいると、「天親菩薩造論説」と少しその先の「天親菩薩論註解」が、どこを読んでいるのかわからなくなり、何度も同じところを繰り返す魔のスパイラルに陥ってしまうのです。

京都の東山に永観堂という有名なお寺があり、そこには“みかえり阿弥陀さま”という珍しい仏像があります。永観は底冷えのするお堂で、ある時は正座し、ある時は阿弥陀像のまわりを念仏して行道していたのだそうですが、ふと眠気に襲われました。すると突然、須弥壇に安置してある阿弥陀像が壇を下りて永観を先導し行道をはじめられたのです。永観は驚き、呆然と立ちつくしたその時、阿弥陀は左肩越しに振り返り、「永観、おそし」と声をかけられました。永観はその尊く慈悲深いお姿を後世に伝えたいと阿弥陀に願われ、阿弥陀如来像は今にその尊容を伝えると言われているのです。

日々、ボーっと生きている時にこそ、阿弥陀様に出会えるのかもしれません。（文責　住職）

葬儀
三月十八日
野尻　衣川かめの様　八十歳

入学おめでとう

桜の花びらが開き始めたこの良き日、晴れて小学校に入学される皆様、おめでとうございます。ささやかですが、お祝いとして住職からのメッセージに絵本を添えてお贈りします。たくさん本を読んで賢くなってください。みんなで応援しています。

出合　生田紗七咲さん　克己様
栗尾　兼井すみれさん　隆雄様
出合市場　大石結生さん　純一郎様
上小田　齋藤新心さん　庄治様

ご案内

「観桜会」を開催いたします。ご参加をお待ちしています。

平成三十一年四月十三日（土）

第一部　グランドゴルフ大会
場所　出石いきいきドーム（弘原）
時間　午後二時開会
その他　参加費無料・豪華商品あり
用具は準備しています

第二部　観桜会
場所　勝林寺本堂
時間　午後五時開会
会費　男性　一五〇〇円
　　女性　一三〇〇円
その他　カラオケ準備あり
　　出し物大歓迎・堂内に桜あり

＊申し込みは、地区仏婦評議員さんに取りまとめをお願いしています。

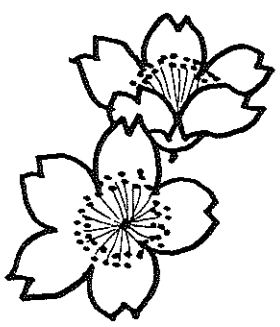
ご報告

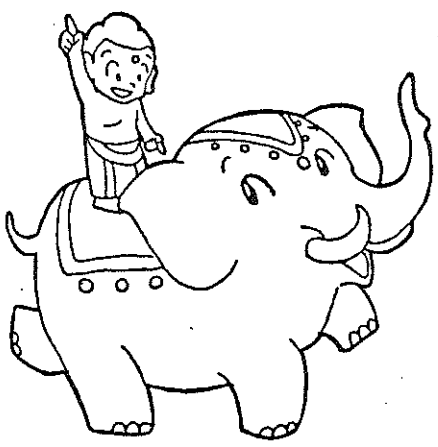
大学、大学院への進学、就職で、合わせて一二年間出石を離れておりました後継住職が、勝林寺に戻ってまいりました。四月より、豊岡市社会福祉協議会でお仕事をさせていただきます。寺ではもちろん、それ以外の場でも皆様にお世話になることと思います。いろいろ教えてやってください。

四月　勝林寺　予定

六　日（土）　出石組　組会
七　日（日）　光顕寺　永代経
　　森友　強宅　遷仏式
一〇日（水）　観桜会　打ち合わせ
一三日（土）　勝林寺　観桜会
一四日（日）　兼井康邦宅　一周忌
二〇日（土）　衣川正之宅　忌明法要
二二日（日）　関岡孝繕宅　三・一三回忌
二六日（金）　みのりを聞く会
二七日（土）　玉井妙子宅　三回忌
二八日（日）　岸下真二宅　七回忌
二九日（月）　石田和俊宅　一周忌

（敬称略）





勝林寺 0796-52-3083 緊急時 090-3708-5424

真宗のまことの信心

仏教において語られる信心には、スタートの信心とゴールの信心があります。仏法を学ぶについては、先ずは仏法に入るための信心、スタート、入り口の信心が必要です。誰か先輩、先師に出会って、仏法の教えを真剣に聞く、その教えの言葉を確かに信用することが大切です。そして次には、その教えにしたがって、自分自身の生活を、仏法者として生きていくことが肝要です。すなわち、朝夕に仏壇にお参りすること、そして思い起こしたら念仏を申すこと、そして時には仏さまのことを思うこと、この身と口と意にかけた、仏法的な生活習慣を身につけることです。そういう日々の生活を続けていたら、必ずゴールとしての信心がひらけてきます。このゴールの信心がまことの信心です。

まことの信心とは、この私自身がまったく主体的に、仏さまに出遇う体験をいうわけです。日々の生活の中で、ふと私はいま仏さまと一緒に生活している、仏さまが今私の生命の中に届いていてくださる、そしてまた、私はいま仏さまの生命に包まれて生きている、という確かな仏と私の一体的な実感、そういう意識をもつことを信心というわけです。もちろん、そんな実感はいつもあるわけではありません。しかしながら、時おりでも、縁にふれたとき、そういう実感、体験が、同じように繰り返し生まれてくるようになったら、それがまことの信心です。

親鸞さまは、阿弥陀仏について、

「この如来、微塵世界にみちみちたまへり。すなわち、一切群生海の心なり。」『唯信鈔文意』

と教えられています。そのように、いまこの私の心、私の生命の中にまで届いていてくださる仏さまに、深く「めざめ」ていくことを信心というのです。

よく世間では、真宗の信心とは、仏の名号を頂くことだとか、仏の慈悲に任せることだという僧侶がおりますが、そんなことは経典のどこにも説かれておりません。まことの信心とは、決して、信じるものと信じられるものとの、二元的、対象的な信ではありません。そんな二元的な信心では、何の責任主体も生まれてきませんし、自分の人生生活に対して、仏法が生きて働いてくるということはありません。仏と私についての、一元的な「めざめ」体験となってこそ、仏法がはじめて身につくことになるわけで、時には仏法が、日ごろの私の懈怠な日暮らしをきびしく問いただし、また時には仏法が、日ごろの苦しさ淋しさをやさしく癒してくれることとなってこそ、仏法が私の人生生活のための、確かなエネルギーとなってくるのです。

島根の浅原才市さんは、

「如来さんはどこにおる、如来さんはここにおる。才市が心にみちみちて、阿弥陀仏を申しておるよ。」

とうたっています。まことに見事です。いま私が申している念仏は、私の中の仏さまが、私に向かって呼びかけてくださる、仏の声なのです。

（信楽峻麿遺稿法語集より引用）

法語カレンダー四月

真実の信心はかならず名号を具す

子どもの頃、竹製の水鉄砲で遊んでいるときのことです。水を竹にいっぱいに入れ、ギューと押すとピューと水が出るのが楽しくて、母親のところに行って「見てみて、これすごいよ」と、思い切りギューと押します。ピューと水が出て、母親に「すごいなー」と言ってもらえるはずだったんです。でも、いくら押しても水は一滴も出ませんでした。

子「なんでやろー」

子「なんで出ないんやろー」

母「見せてごらん、ああ、これでは水は出ないはずだわ。一滴も水がはいってないやんか」

子「えー空っぽ？そらでえへんわ」

水が入ってない水鉄砲を、一生懸命ギューッと押したって、何も出てこないのは当たり前です。水を入れてもらって、ギューッと押してもらったからこそ、ピューって水が出るのです。

阿弥陀さまは、この私を救うために、必要なご用意を全て成しとげてくださいました。そのお救いがこの私に至り届き入り満ちて、私の安心とならなければ意味はありません。

もともと「南無阿弥陀仏」のお救いなんて、何も知らなかった私は空っぽでした。空っぽの私に阿弥陀さまがギューと届いてくださって、私に「南無阿弥陀仏」が入り満ちてくださいました。阿弥陀さまがギューと押してくださるから、「南無阿弥陀仏」でいっぱいの私から「ナンマンダブツ・・」とお念仏があふれてくださいます。お念仏がこの口に出てくださって、手が合わさって、頭が下がる身となりました。阿弥陀さまが、いまご一緒してくださっているということです。

（「心に響くことば」より抜粋）

どすん

うれしいことがありました。

化粧石鹸を使い切った時と変わらないくらいの感動でした。お知り合いのご婦人の遺失物を探し出したのです。失くしたものは小さなものでしたが、彼女にとっては、とても大事なものでした。広くないお部屋でしたから、簡単に見つかるだろうと、軽い気持ちで探し物を引き受けました。ところが、二十分くらい探してもなかなか見つけることが出来ません。すると、私の中に、いろいろな感情が起こってきます。（本当に、この部屋でなくなったんだろうか。どこかに、忘れて来たんじゃないか、誰かが持って行ったんじゃないか、ゴミに紛れてすてられたんじゃないか・・）私が見つけられないのではなくて、何かほかの理由で見つからないのだと考えるわけです。思えば、今までも、こうやっていろいろ面倒なことから、言い訳をしたり理由をつけて、逃げてきたような気がします。でも、今回は、彼女に「このお部屋の中で必ず見つかるよ」と安心させてあげる必要があったので、途中でほおりだすわけにはいきません。引き出しの中は、すべて出し切り確かめることを三回繰り返しました。押し入れの中も、箱や袋の中は一つ残らず中身を出して確かめました。最後には、冷蔵庫の中まで確かめました。

（笑）もうここになかったら探すところはないと思いながら探した布団のあいだからお目当てのものが出てきたときは、彼女と抱き合って「やったー！あったー！」と、喜び合いました。うれしくて、部屋の景色がにじむほどでした。失くしたものが見つかった喜びもさることながら、あきらめないで探しきることのできた自分がうれしかったのです。所要時間五〇分。いつも途中で投げ出してばかりの私が、今になってようやく「使いきる」「探しきる」など「やりきる」喜びをじんわりと味わっています。（文責　坊守）